

事例 No.	47	人口規模	30万人以上	地域ブロック	中国	事業タイプ	交流イベント	事業主体	その他
事業名	岡山市おやこクラブネットワーク育成事業								
実施地方公共団体名	岡山市(岡山県)								
特徴・ポイント	市内 81 の小学校区全てに地区おやこクラブがあり、それぞれ保護者が自主的に企画・運営している。また地区内の他組織とも協力・連携しながら地域に根ざした活動を進めている。								
事業のねらいと内容	<p>【ねらい】 子どもたちの豊かな心と健康な体を育てるために、同年代の親同士が子育ての喜びや悩みを共にしながら仲間づくりをすすめて、育児力の向上をはかる。また、子ども達の動的遊びや集団遊びを豊かにし、健全な子どもの育成を目指す。</p> <p>【内容】 ・地区おやこクラブでは定例会を週1回から月1回程度開催し、伝承遊び、季節の行事、親子遊び等を実施しており、またおたよりを発行し、発動の PR をしたりしている。</p> <p>・ネットワークは市内を6つのブロックに分け、各ブロックから選出された 12 名の理事から構成される。市全体の情報交換や問題解決を図るための話し合いを行う。</p>								
導入・実施の背景・経緯(事業の必要性)	核家族化や地域連帯の稀薄等、生活形態の変化による保護者の孤立と、一方通行の情報過多の問題があり、そのことが虐待や子どもの発達へのゆがみの要因ともなるため。				導入・実施に際して苦労した点				
事業の効果	仲間づくりがすすみ、養育者の孤立化を防ぎ、虐待予防につながっている。子どもは集団遊びの中で、関係性を学ぶことができている。また、おやこクラブ役員経験者は、卒会後も PTA 役員や子育て関係のボランティア等の地域貢献ができている。				実施にあたってのネックをどのように解決したか				
事業のアピールをどのように行なったか	赤ちゃんすこやか相談等での紹介、愛育委員会の協力による PR、地区公民館、スーパー、コンビニ、病院等へのポスター掲示、口こみでの勧誘				市内全地域に広げていく過程、育成側とクラブ役員と共通認識ですすめていくこと。行政の中に事務局を置く時、行政側の理解を得ること。				
必要な協力先・実施主体とその確保策	(必要な協力先) 市民 (確保策) 町内回覧、ポスター、健診会場等での働きかけ、愛育委員会(健康ボランティア組織)への働きかけ等				実施にあたってのネックをどのように解決したか 最近の保護者の傾向から受け身姿勢で、役員のなり手がいない それぞれの得意分野を活かし、役割分担し、役員一人ひとりの負担感を軽減する 基本的活動費は自己負担により運営。自由に使える費用がない 補助金の増額・他団体からの寄付 今後の企業等とのタイアップの仕方 企業参入に関して「ものさし(規定)」の導入 他の育児支援の場が充実する中、自主運営、自己負担での運営は敬遠され、会員数の減少が起こっている おやこクラブならではのよい点を強調し PR していく。				
概算事業費(千円/年度) 平成 18 年度予算	1,935,000 千円 < 内訳 > 国庫補助金: 600,000 千円 一般会計: 625,000 千円 その他: 8,500 千円 (具体的名称 市社協補助金、会費)				問い合わせ先		所属部署: 健康づくり課 TEL: 086 - 803 - 1264 FAX: 086 - 803 - 1758		